

第 15 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和 7 年 1 月 7 日（火）

開催時間 午後 3 時 00 分から午後 4 時 28 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 降籬 友宏
 教育長職務代理者 松坂 浩志
 委員 橋本 幸子
 委員 梶浦 陽子
 委員 小澤 幸子

出席職員	教育次長	信田 恭央	教育企画室	
教育長	監事	荻野 智夫	主幹 折居 篤	
教育副参事	副参事	山崎 克也	主任 佐藤 薫	
総務課長	課長	望月 勝一	高校教育課	
教育企画室長	補佐	河野 敏一	主幹・指導主事	川口 泰才
福利給与課長	課長	永井 研一	生涯学習課	
学校施設課長	補佐	名取 猛	課長 補佐	串原 賢
総括課長	補佐	小池 孝二	主任	渡邊 雅男
義務教育課長	課長	渡邊 英裕	保健体育課	
高校教育課長	課長	玄間 修	課長 補佐	平子 順一
特別支援教育・児童生徒支援課長	課長	古屋 明子	主幹・指導主事	小沢 健司
生涯学習課長	課長	花輪 孝徳	副主幹・指導主事	小田切 孝之
保健体育課長	課長	伊藤 宏紀	主任	村田 祐次
働き方改革推進監	主任	大沼 純一	総務課	
企画調整主幹	主幹		課長 補佐	藤田 秀文
			主任	小池 涼子

傍聴人 0 名

報道 2 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

長澤委員から都合により会議を欠席する旨の届出があった旨、教育長から報告があった。報告事項10「令和9年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称、スローガン、シンボルマーク、総合ポスター図案」の選考結果について」は、今後、関係機関との協議等を必要とする事項である旨教育長から発言があり、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

1 議 案 な し

2 報 告 事 項

(9) 第9回大村智自然科学賞受賞者について
 [説明] 高校教育課

小澤委員 今回中学生の応募がなかったことに関してはどのような考察をされていますか。

渡邊課長 中学生においても研究は進んでおりますので、今後の見通しは十分あると考えております。

小澤委員 毎回すごくレベルが高いですね。

- 教 育 長 そうですね。この賞は学術的に優れているものを表彰しておりまして、大学生の研究といっても通用するようなレベルの高いものが多いという印象です。ただ、今年は中学生の応募がなかったということで、この点については何か対応を考えた方がよろしいのかもしれない。
- 小 池 課 長 中学生が科学を研究している団体がありますので、学校だけでなくそういうところにも声かけをして、来年度は応募が出るように働きかけをしていきたいと考えております。
- 教 育 長 選考委員は大学の先生などかなりアカデミックな方々に評価していただいているのですが、例えば、受賞歴がないから対象にならないという理由ならば、その要件を少し見直して、可能性を広げてあげるということを柔軟に考えてもいいのではないかと思います、その点はいかがでしょう。
- 小 澤 委 員 私は賞の権威を保つために、受賞の要件はあってもいいのかなと思います。このクオリティのものをあげる賞ですということで大村智自然科学賞の要件が決められているのならそれはそれでいいのではないかと思います。
- 教 育 長 この賞は大村先生ご自身がお忙しい中いつも受賞式に来てくださるのですが、応募が少ない、なかったというのは正直寂しいと感じております。応募がないから緩和をとという安易な考えではなく、レベルが高くて質が担保されるならばチャンスを広げるという考えもあっていいのではないかと思います。ただ、この賞は大村先生がノーベル賞を受賞されたことを受けてレベルの高い層を受賞するという9回目を重ねる歴史あるものですので、小澤委員がおっしゃるように、権威という部分も大切にしていかなければなりません。この賞のあり方や方向性について選考委員の皆様方のご意見を伺ってみるのも1つではないでしょうか。松坂委員いかがですか。
- 松 坂 委 員 私もちっと高校生の応募件数が少ないなと思いました。2校だけということで、主な受賞歴ということならば、最近SSHで様々な研究を出している中で、その中で受賞しているものを応募してもらうような働きかけをすればもっと活性化するのではないかと思います。今回受賞されたこの研究は、高校生で電子顕微鏡を使用しているようですが、学校に電子顕微鏡はあるのでしょうか。
- 川口主幹・指導主事 甲府南高校にはあります。
- 松 坂 委 員 高校でも持っているところがあるんですね。電子顕微鏡といった高度な装置がないと応募できないようなことにならないように、広く研究が評価されるようなものにしていただけたらと思います。
- 教 育 長 今回の大村智自然科学賞以外にも高校生などが応募できる科学分野のものに、山梨科学アカデミーのものがあります。これは受賞歴を問わず応募できるものでありますが、対象となる層が異なっておりますので、ほかのいろいろな賞との棲み分け、位置付けなどもみながら賞の在り方について考えていく必要もあるかと思えます。
- 松 坂 委 員 SSHでも学会発表をしてそこで賞を取っている高校もあると聞いているので、働きかけでもっと広めることができるのではないかと思います。
- 梶 浦 委 員 この賞はどういうものを求めるのか、全体の科学分野の底上げをするのか、それとも素晴らしい研究をした突出したものだけに賞を与えるのか、そのスタート地点や方向性をしっかりと見極めないと応募が少ないままになってしまうと思います。
- 教 育 長 ありがとうございます。科学館で行っている大村先生のお名前を冠した取り組みとして大村賞というものがありまして、これはどちらかというと科学の入口として、科学に慣れ親しんだり、ちょっと視点が面白くユニークものを評価する賞となっております。山梨県では理数系の取り組みを様々なところで行っていますので、また別の機会でご紹介できればと思っております。いずれにしても、この賞については毎年応募が1例か2例みたいなところがあるので、この点については教育委員会といたしましても意識して取り組んでいきたいと思っています。今日は委員の皆様方から大変貴重な示唆に富む御意見をいただきましたので、これを踏まえながら考えていきたいと思っています。橋本委員はいかがでしょう。

橋本委員 この賞は9年目ということで権威というか、意味合いというのはやはり重いと思います。その重みは大事にしつつ、昨年も応募が少なかったのもそこは検討していただければと思います。
大村先生の賞に挑戦できる高校生、中学生が多く育つといいなと思います。

教育長 おっしゃるとおり、我々も山梨から第二の大村先生となるような理科系や数学系の逸材を1人でも多く輩出できるように、伸びる才能はどんどん伸ばすような種まきや掘り起こしをしていきたいと思っています。ありがとうございました。

【 了 知 】

- (10) 令和9年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称、スローガン、シンボルマーク、総合ポスター図案」の選考結果について
〔説明〕 保健体育課
(非公開：会議の要旨)
令和9年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称、スローガン、シンボルマーク、総合ポスター図案」の選考結果について、受章作品の説明を受け、出席委員全員に了知された。

3 その他報告

- (13) 令和6年度中学校卒業予定者の第2次進路希望調査結果の概要について
〔説明〕 教育企画室

松坂委員 近年競争倍率が低い高校は、相変わらず低い状況にありますね。
生徒の志向は多様化してきているので、要望に沿った学科編制など少しずつ見直しをしていかないと希望者ゼロという状況になってしまうと思います。公立の中高一貫校など、もう少し学校の特色を生かした形で生徒を募集することをどこかのタイミングで総合的に考えていく必要があるのではないかと思います。

教育長 学科については各学校が工夫を凝らして中身を変えようと毎年努力していただいているようです。
県では長期構想2020に県立学校のあり方の基本方針を策定しておりまして、これに沿って高校の魅力化などの取り組みを行っております。現在、10年スパンの折り返し地点くらいになりますが、次の長期構想の更新をどのような形にするのか、今松坂委員がおっしゃったような新たなそのスタイルというものも含めて多様な発想で議論していきたいと考えております。

橋本委員 通信制の高校を選択する生徒が年々すごい割合で増えているような気がします。ただ、内訳をみると県内の公立高校通信制の希望者は定員に対して少ないので、多くの生徒は県外や私立の通信高校を選んでいるのかもしれないですね。子供達のニーズとして通信制が増えている現状がありますので、今後はその辺りも考えていかないといけないのかなと思います。

教育長 調査結果では県立中央高校以外の通信制希望者が358人とありますが、内訳は把握されているのでしょうか。

河野補佐 そこまでは調査しておりません。
推測ですが、近年はICTを活用した子供の多様な学び方を支援するような通信制の学校が増えてきていますので、自分のやりたいこと、学習したいことに対応できる通信制を選択する生徒が増えてきている傾向があるのではないかと思います。

教育長 ここ数年、積極的に通信制高校を選んでいる生徒が増えてきている傾向があります。学校に集まって学ぶスタイルが合わないような生徒にとっては、インターネットを中心とした学びの方が合っており、通信制はそのような生徒達の受け皿になっていると思います。
教育委員会としては、学びたいけど学べなくて引きこもりになったり、どこかの助けも借りることができないといったことに繋がらないように、子供達のニーズが多様化している今、我々がどこまで応えていけるのか、都度議論を重ねて見直しを図っていく必要があるのではないかと思います。

- 橋本委員 本来ニーズは多様化してきていて、学校に行けない生徒に学習の場を提供するというのもありますが、これを学びたいとはっきりしたものを持っている生徒たちも最近が増えてきているような気がします。
- 教育長 そうですね。それは非常にいいことで、もう目標が定まっているなら早く専門的な学びを履修したほうがいいので、多様な選択肢という環境をどう提供できるのかも大切になってきていると思います。
また、学校のあり方として、学校に通って学ぶのは良いけど、学校に通わなくてインターネットで学ぶのは良くないとかそういう話ではなく、子供たちが身につけていくべき社会性について、それを学校の中で多く経験していくのか、それとも家庭や地域の中で経験していくのかということも選択肢の一つに今後はないかと思っています。これは中央教育審議会においても、今後の学校のあり方として審議、議論されています。
- 松坂委員 最近教育の主体性が生徒に移っていると思います。
生徒一人一人に向けた教育という受け身ではなく、生徒が自分で考えて要求することに対してそれに適したサービスを提供しないと教育が追いついていかないのではないかと思います。
- 教育長 まさにおっしゃるとおりだと思います。少し補足させていただければ、生徒が求めるサービスを提供というよりかは、生徒が求めるものにどう教師が後押しやサポートをすることができるのかではないかと思っています。
今後は先生が一斉に教えたり伝授するという機会はだんだんと少なくなっていく、生徒が学びたいこと、やりたいことについてどう助言や支援ができるのかといったファシリテーター的な役割が強くなっていくのだと思います。
私はよく「子供主体の教育への転換」という言葉を使っているのですが、先生が与えて子供がそれに答えるということではなく、子供がこうしたいというところはどう先生が後押しをしていけるのかが重要になってきていると考えております。そのために先生方にはこれまでと異なるスキルになりますが、ファシリテーターのような指導技術などを習得していただくための取組を強化、加速していきたいと考えております。
- 橋本委員 子供達の要求や学びたい内容に対して教師がサポートしていけるように、先生方もより力をつけていかなければならないなと感じました。
- 教育長 今、教員の研修の仕方を変えようとしておりまして、これまでの研修はテーマに基づいて講師の先生から指導技術を受けるタイプだったのですが、新しく取り組もうとしている研修は、答えが出ないもの、よのなか科と同じようなものもやして終わるようなものを想定しています。そのもやもやしたものは何かということ先生方に次の探究に繋げてもらうというのが肝になっていく研修です。
学校の授業は子供に正解を教えるものもちろんありますが、正解のないものにどう自分自身で考えていくのかということに重きを置くようになってきていますので、まさに先生自身がそういう経験しないと教えることはできないため、研修で疑似体験を先生にさせていただいて、その経験を自分の授業で活用していただくことを考えております。併せて、生徒を後押しするというマインドセットに繋がる部分もありますので、こうしたコンセプトで今、総合教育センターのほうで来年の計画を立ててもらっています。
- 小澤委員 ちょっと質問ですが、この進路希望調査は、例えば1年後に希望どおりだったのかなどの後追い調査はしていますか。
- 河野補佐 しておりません。
- 小澤委員 希望どおりに入学したけれどもいろいろと事情があって学校に行けなくなり、通信制に移ったというケースを身近なところで何件か聞いています。
- 教育長 県教委としての調査でなくても、各学校が個別に入学後の生徒にアンケートを取ったりするのでしょうか。
- 荻野教育監 学校は毎年自己評価をしていて、それを公表することになっているので、生徒に対してもやる気や前向きな姿勢などアンケートを取っております。
また、年度当初には学びの診断を行っている学校がかなりありまして、診断結果に応じて教師が生徒と懇談をして悩みなどにできるだけ寄り添っていくといった努力を行っております。
- 教育長 入学した生徒達が学校にしっかりとついていけているのか、不登校の前兆はないかといったフォローは各学校で個別に行っているようですね。

教 育 長 この第2次進路希望調査の結果をもって中学3年生が最終的にどこを受験するのか参考にさせていただくことになります。本日公表ですので、明日以降メディアでの公表になるかと思えます。
本日、委員の皆様から様々な御意見をいただきましたので、私どももこの結果を基に、引き続き教育のやるべきことに繋げていけるよう議論を重ねていきたいと思えます。

【 了 知 】

- (14) 青少年保護育成のための環境浄化に関する条例の一部を改正する条例
〔説明〕 生涯学習課

【 了 知 】

- (15) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
〔説明〕 保健体育課

教 育 長 この調査結果は、文科省からも全国的に改善が図られている傾向があるという報道がありました。コロナ禍で外で走ったりするなど運動することが抑制されていましたが、ようやくコロナ前に戻ってきた兆しがみられます。
今後の見通しですが、この調子で上がっていくことが期待されるのか、それとも横ばいになっていくのか、どのように考えていますか。

花 輪 課 長 小中学校の男子につきましては上昇していくのではないかと考えています。小中学校の女子については横ばいか、若干低下していくのではないかとこの考えを持っております。いずれにしても運動時間を確保することが課題だと思っております。

教 育 長 今年度は夏にパリオリンピックが開催され、スポーツへの関心が国内で高まったと思いますが、その影響、例えばもっと運動しようといったものは何かあったのでしょうか。

花 輪 課 長 少しはあったかもしれませんが、どこまでかは不明であります。

小 澤 委 員 温暖化により、夏は暑すぎて運動ができなくなることが今後増えていくのではないのでしょうか。

花 輪 課 長 確かに夏は熱中症予防のため運動は控えましょうと言われておりますので、影響はあろうかと思えます。

小 澤 委 員 今年度は暑すぎて、熱中症のリスクがあるということでプールも禁止になりましたよね。夏は子供はあまり運動ができなくなるのではないかとすごく感じます。

教 育 長 子供達の体力へも影響があるかもしれませんね。

梶 浦 委 員 先ほどオリンピックの話が出ましたが、子供達の運動においても種目の偏りが出てくるのではないかと思います。オリンピック種目として最近スケボーが盛り上がりつつあるように、子供も特殊なスポーツや自分が興味を引くスポーツに偏って運動をしている傾向にあるので、握力や50メートル走といったものは、なかなか統計が取りづらくなってきているのではないのでしょうか。
運動にも子供それぞれの個性が表れてきていて、それはそれで良いと思えます。

小 澤 委 員 この冬休みに走りの学校というイベントに参加しましたが、走ることはだいたいみんなできるでしょというので、走り方って学校であまり体育の授業で教わることがないと聞きましたが本当でしょうか。

花 輪 課 長 指導要領にテンポ良く走る、リズムに乗って走るといった学習内容があります。走り方や速く走る方法を教えるというよりも、楽しく、自分が決めた目標に対してどう走るかといった授業をしています。

小澤委員 走るのが遅い、速いは才能だと思っていたのですが、そうではなくて結構みんな伸びしろがあり、体の使い方を教えてもらえば上達するということがイベントに参加して面白いなと思いました。また、自分をもっと伸びしろがあるよという働きかけは非常にユニークで、学ぶところはあるなとも思いました。学校でも教えているということで安心しました。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上